

次号予告

特集 データ解析コンペティション：ECサイトの販売履歴データ分析

COVID-19と消費者のオンライン購買行動—販売時系列データへの動的因子分析の適用—

..... 里村卓也（慶應義塾大学）

新型コロナウイルス感染症発生前後における商品ジャンル需要の変化

—非負値テンソル因数分解およびバースト検知による購買特徴抽出—

..... 木村航大・熊走怜大・生田目崇（中央大学）、大竹恒平（東海大学）

ECサイトにおける利用者属性データの欠損値補完

..... 川上雄大・奈良岡勇・松本拓見・安元優太・朝倉希美・椎名 萌・

守屋恵瑠萌・高野祐一（筑波大学）、鮎川矩義（法政大学）

価格プロモーションにおけるディップに注目した売上効果の測定—動的構造推定によるアプローチ—

..... 石原昌和（ニューヨーク大学）、熊倉広志（中央大学）

機関誌バックナンバーのWeb掲載について

機関誌のバックナンバーを学会ホームページに掲載していますのでご活用ください。 <https://orsj.org/corsj-backnumber>
会員限定ページの閲覧に必要なユーザー名とパスワードは、会員マイページに掲載しています。

編集後記

●若い頃は、本号の特集のAHP/DEAのような、定量化が難しい変数を含むモデルの意義をよく理解できていなかったように思う。運用の際に、変数に入る値を“正確に”測定できないのだから、そのようなモデルに従って最良とされる結果もあまり“正確”ではなくそのまま実行するには心許ない。「ゆえに」そのようなモデルやその運用に意味が「ない」と思い込んでしまったのだ。

●多少の数理最適化の実務経験（意思決定ではないが）を積んで、「けれども」そのようなモデルやその運用に意味が「ある」と思うようになった。そもそもモデルというものは現実を数理的に扱える形に切り取ったものなので、多かれ少なかれモデル化によって考慮から外れてしまう要素がある。また、モデルを運用することは、モデ

ルが何を考慮できて何を考慮できないかを理解していくことを含み、モデルで考慮した部分が導く結果以上に、対象に対する理解を深める触媒としての意義があると知ったからだ。特に意思決定においては、モデルで考慮できなかった項目はリスクとして別途対処し、モデルで考慮できていないと気づけなかった事象に関しては覚悟する必要もありそうだ。

●また、近年はどの分野でもソフトウェアツールが充実してきているように感じる。より手軽にモデルの出力結果が得られ、入力変数を変化させた場合の感度分析も容易になるので、モデルの数理的前提を深く理解するOR実務家にも嬉しい状況ではないかと思う。

（井床利生）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 関谷 和之（成蹊大学）

特集担当編集委員 猿渡 康文（筑波大学）

委員 朝日 弓未（東京理科大学）、伊豆永 洋一（九州大学）、井床 利生（IBM基礎研究所）、井家敦（神奈川工科大学）、鶴飼 孝盛（防衛大学校）、大竹 恒平（東海大学）、加藤 怜（公益財団法人鉄道総合技術研究所）、小林 隆史（立正大学）、佐久間 大（防衛大学校）、笹谷 俊徳（東京ガス株式会社）、鮎川 矩義（法政大学）、高野 祐一（筑波大学）、生田目 崇（中央大学）、野々部 宏司（法政大学）、蓮池 隆（早稲田大学）、原田 耕平（株式会社NTTデータ数理システム）、水野 信也（順天堂大学）、山本 零（慶應義塾大学）、吉田 琢史（株式会社東芝）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

令和6年1月号 第69巻 第1号 通巻757号

代表者 山上 伸

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 TRUST VALUE 岩本町7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<https://orsj.org>

編集人 関谷 和之

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。